

高齢者インフルエンザ予防接種について

説明書

～接種前に必ずお読みください～

予防接種を受ける前に、この説明書を良く読み、予防接種の必要性や副反応について理解してください。

1 インフルエンザとは？

インフルエンザは、すでにインフルエンザにかかった人の咳やくしゃみのしぶきなどでウイルスが広がり、それを吸い込むことで感染します。

【症状】

- ①突然の高熱
- ②頭痛・関節痛・筋肉痛
- ③のどの痛み・咳・鼻水

上記の症状が、普通のかぜに比べ強くあらわれます。



2 インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザの予防接種は、例外的な場合を除き、毎年1回行うことで、高齢者や、心臓などに持病のある成人のインフルエンザウイルス感染による重症化や死亡を減らす効果があるといわれています。

予防効果が期待できるのは、接種した日から2週後以降、3~5か月程度と考えられています。

3 接種対象者

静岡市に住民票がある方のうち、次の①または②に該当し、接種を希望する方が対象となります。（インフルエンザ予防接種は義務ではありません。希望する場合のみ接種を受けてください。）

- ①接種日に満65歳以上の方
- ②接種日に満60歳以上65歳未満の方で、心臓、じん臓、若しくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有し、その障害の程度が身体障害手帳1級相当の方

4 予防接種を受ける前に

予防接種について、気になることや分からないう�があれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないで下さい。

接種に慎重を要する人もいますので、事前に予診を十分受け下さい。また、予診票は、医師が接種の可否を決めるための大重要な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えて下さい。



(予防接種を受けることができない人)

- ①明らかに発熱（37.5℃以上）がある人
- ②重い急性疾患にかかっている人（急性疾患の種類や状態は、医師が判断します）
- ③注射に含まれる成分（鶏卵など）で激しいアレルギー症状を起こした事がある人
- ④前にインフルエンザの予防接種を受けてから2日以内に、発熱、体のかゆみなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した人

(予防接種を受ける際に担当医師とよく相談しなくてはならない人)

- ①心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身辺の日常生活が極度に制限される程度の障害を有する者
- ②ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者

(予防接種を受けた後の一般的注意事項)

予防接種を受けた後30分は、急な副反応（本来、意図しない反応）が起こることがあります。医師とすぐ連絡を取れるようにして下さい。また、副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調の変化に注意して下さい。接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や、大量の飲酒は避けましょう。また、入浴は差し支えありませんが、注射した部分を強くこすることはやめましょう。

他のワクチンとの接種間隔

ワクチン接種の前後に、他の予防接種を受ける場合、接種間に制限はありません。

ただし、疾患のある方や不安がある方は、事前に医師と十分に相談してください。

5 インフルエンザ予防接種の副反応と健康被害

インフルエンザ予防接種の副反応については、接種した部位が腫れたり痛んだりすることがあります。また、発熱やさむけ、頭痛、全身のだるさがみられることがあります、いずれも通常2、3日のうちに治ります。

予防接種と一緒に他の病気がたまたま重なったり、注射の成分にアレルギーのある人は、じんましんや血圧低下、呼吸困難等の激しい症状が現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診察を受けてください。

極めてまれに脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることがありますが、このような場合、厚生労働大臣が予防接種によるものと認定したときは、法律に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

6 感染予防対策

【予防のポイント】

- ①十分な栄養や休息をとりましょう。
- ②室内を温かくし、加湿器などを利用してみましょう。
- ③人混みは、避けましょう。
- ④外出時には、マスクを使用しましょう。
- ⑤帰宅時には、うがい、手洗いをしましょう。



定期接種制度について問い合わせ先

静岡市保健所感染症対策課

☎054-249-3173
☎054-249-3152